

北関東防衛局広報

平成30年10月(第96号)

編集・企画発行 | 北関東防衛局総務部広報室
さいたま市中央区新都心2-1
<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



昭和記念公園(立川市)の秋のたたずまい(米軍立川基地の返還跡地に昭和天皇在位50周年を記念して整備された国営公園)

目次

CONTENTS

- 2 硫黄島で空母艦載機着陸訓練
- 3 練馬で第40回防衛問題セミナー
- 4 自衛隊駐屯地等における北関東防衛局の広報活動について
- 5 朝霞地区一部事務組合 新し尿処理施設の竣工式
- 6 優秀工事に顕彰状を授与
薬物乱用防止への取り組みについて
- 7 小笠原諸島返還50周年記念式典
- 8 お知らせとお願い
 - ・航空機へのレーザー光線の照射は犯罪です
 - ・米軍施設上空や周辺でヘリやドローンを飛行させる行為は危険です

硫黄島で空母艦載機着陸訓練

訓練期間中約4,170回の着陸訓練を実施

原子力空母ロナルド・レーガンの艦載機による54回目の空母艦載機着陸訓練（FCLP：Field Carrier Landing Practice）が、平成30年5月3日から25日までの間、硫黄島で実施されました。

訓練には、原子力空母ロナルド・レーガンのC-2A、E-2D、F/A-18E、F/A-18F及びE/A-18Gの艦載機が参加し、期間中に約4,170回もの着陸訓練が行われました。

今回の訓練は、平成30年3月30日に原子力空母ロナルド・レーガンの艦載機が厚木飛行場から岩国飛行場への移駐を完了してから初めて行われる硫黄島での着陸訓練でした。

訓練開始前から北関東防衛局は、訓練が円滑に遂行されるよう、企画部次長を始め職員33人を硫黄島に派遣し、器材の使用及び支援物資の輸送に係る米海軍、海上自衛隊及び航空自衛隊との間の連絡調整や、給食、施設の管理に係る役務の調達等の支援業務を昼夜を問わず行いました。

今回の訓練は、当初平成30年5月13日まで実施される予定が、25日まで延長されました。そのため、当局が行う訓練支援も長期にわたることになりましたが、硫黄島の自衛隊基地を管理する海上自衛隊及び航空自衛隊の支援により、無事すべての訓練を終えることができました。

北関東防衛局としては、本土における飛行場周辺での航空機騒音軽減などを図るため、米軍には累次の機会にできる限り本土の飛行場ではなく、暫定的な代替施設である硫黄島において訓練を行うよう要請しているところであり、訓練が硫黄島において円滑に実施され、本土の飛行場周辺における航空機騒音の軽減が図られるよう、今後とも努めてまいります。



着陸訓練を行う空母艦載機



日米間での会議の様子

空母艦載機着陸訓練とは

米海軍空母の出航に先立ち、空母艦載機が海上で空母に安全に着艦できるよう、パイロットの練度の維持・向上を目的として、陸上の飛行場の滑走路で行われる着陸訓練で、米海軍の艦載機のパイロットにとって必要不可欠な訓練です。

練馬で第40回防衛問題セミナー

「あらゆる緊急事態に備えて!～陸上総隊新編と首都東京の危機管理～」

北関東防衛局は、7月12日(木)、練馬文化センター(東京都練馬区)において、第40回防衛問題セミナーを開催しました。当日は約340名の方々が来場されました。

今回のセミナーでは、「あらゆる緊急事態に備えて!～陸上総隊新編と首都東京の危機管理～」をテーマとして、地域住民の方々に今年3月に朝霞駐屯地に新編された陸上総隊の目的・役割や東京都における危機管理の取組について理解を深めていただきました。

セミナーでは、最初に主催者を代表して吉田北関東防衛局長が挨拶を行った後、第1部で陸上総隊の初代司令官である小林茂陸将に「陸上自衛隊創隊以来の大改革～陸上総隊の任務と役割～」について、第2部で東京都危機管理監の田邊揮司良氏に「東京都における危機管理の取組」について講演していただきました。

参加者からは、「陸上自衛隊が何を目指しているのか、どう変わろうとしているのか良く理解できた」、「陸上総隊の組織について参考になった。新聞記事で読むより理解できた」、「東京都の取組を知ることができたことによって、災害発生時の行動について改めて考えることができた」、「警察、消防、自衛隊との連携がよく分かった」など、多くの感想が寄せられました。

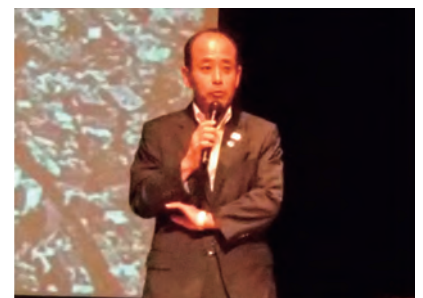
この他、同会場内のホワイエで、北関東防衛局の業務を紹介するパネル展示を行いました。

なお、このセミナーの開催に当たり、東京都から「後援」、陸上総隊司令部、陸上自衛隊東部方面總監部、自衛隊東京地方協力本部から「協力」を頂いております。

なお、セミナーの概要等については、当局のホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。



陸上総隊司令官 小林茂陸将



東京都 危機管理監 田邊揮司良氏



会場の様子

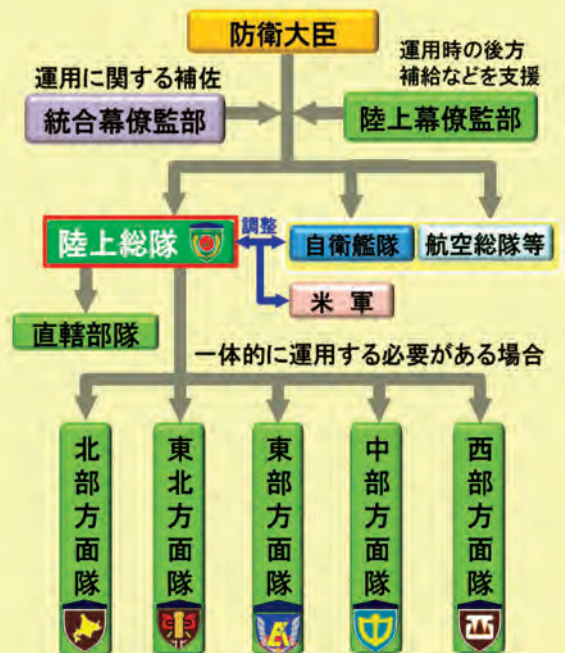
※陸上総隊新編



一層厳しさを増す我が国を取り巻く安全保障環境の変化を踏まえ、統合運用の下、作戦基本部隊(各師団、旅団)などの迅速・柔軟な全国的運用を可能とするため、平成30年

3月27日、陸上総隊司令部が朝霞駐屯地に新編されました。

陸上総隊は、平素から運用に係る事項に関し方面隊等を指揮します。また、陸上総隊司令部は、統合幕僚監部、自衛艦隊司令部、航空総隊司令部等及び米軍との間における平素からの運用に係る調整を一元的に実施します。これにより、迅速かつ円滑な部隊運用及び調整が可能となるため、総合運用の実効性が向上します。



自衛隊駐屯地等における北関東防衛局の広報活動について

北関東防衛局では、防衛省・自衛隊の各種施策や活動等について、地域住民の皆様方にその意義や内容についてお知らせするため、自衛隊等の各種イベントの場において広報活動を行っています。

今年度はこれまでに、陸上自衛隊新町駐屯地創設記念行事（群馬県高崎市）、陸上自衛隊下志津駐屯地創設記念行事（千葉県千葉市）、レイクタウン防災フェス2018（埼玉県越谷市）、護衛艦「ひゅうが」一般公開（新潟県新潟東港）において、当局の広報ブースを出展いたしました。



4月 新町駐屯地創設記念行事



4月 下志津駐屯地記念行事



5月 越谷レイクタウン防災フェス



7月 護衛艦「ひゅうが」一般公開

当局の広報ブースでは、防衛省・自衛隊の各種施策や活動を紹介するパンフレット、防衛白書のパンフレット版の配布や当局業務紹介のパネル展示を行っているほか、展示したパネルの内容を見ながらの防衛省・自衛隊に関するクイズなど、大人から子供まで、より多くの方々に防衛省・自衛隊の各種施策や活動に興味・関心をもっていただけるよう取り組んでおります。なお、クイズに参加いただいた皆様方には、装備品のペーパークラフトなどの粗品を差し上げています。

また、レイクタウン防災フェスは、「震災復興、防災・安心安全、日本を元気に」をキーワードに防災を楽しく学んでもらうことを目的として埼玉県や越谷市等の主催で実施されたものですが、当局としても、本イベントの趣旨に賛同し、後援しております。

今後とも、北関東防衛局は、管内の自衛隊駐屯地等における様々なイベントの場で様々な広報活動を精力的に行って参ります。当局の広報ブースを見かけた際には、是非、お気軽にお立ち寄りください。



防衛施設周辺の環境整備事業

朝霞地区一部事務組合 新し尿処理施設の竣工式

7月30日(月)、朝霞地区一部事務組合主催の「朝霞地区一部事務組合新し尿処理施設竣工式」が開催されました。竣工式には、同組合の管理者である松本和光市長を始め、同組合の構成市である朝霞市、新座市及び志木市各市長のほか、当局からは吉田北関東防衛局長、池田企画部長が出席し、同施設の竣工を祝いました。

第1部の記念式典では、松本事務組合管理者からの開式挨拶に引き続き、河野組合議会議長とともに、吉田局長が住民の生活環境に配慮された新施設の完成に対し、お祝いの言葉を述べたほか、DVD上映による新施設の紹介などが行われました。式典終了後には、第2部として新施設玄関前で、来賓者等によりテープカットが行われ、引き続き新施設のお披露目見学会が開催されました。

新施設は、生物脱臭装置等の設置により臭気対策に万全を期すなど周辺環境に配慮しているだけでなく、各機器の自動制御等を行う集中管理システムの導入により、少人数による運転管理を可能としているほか、処理能力に応じたコンパクトな建物、シンプルな設備となっており、これにより陸上自衛隊朝霞駐屯地を含む朝霞市ほか3市から排出される汲み取りし尿及び浄化槽汚泥の効率的かつ経済的な処理が可能となりました。

当局は、旧施設が供用開始から50年以上経過し、施設や設備の老朽化が著しく進行していたところ、同施設において本年3月に陸上総隊司令部が新編された朝霞駐屯地等から排出されるし尿等を継続的に受け入れていたこと、また同駐屯地等の防衛施設の存在や運用が地域社会に影響を及ぼしていることに鑑み、これら防衛施設と周辺地域との調和を図るため、本施設の整備について、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条の規定に基づき、「民生安定施設整備事業」として採択し、平成28年度から30年度にかけて事業費の一部(約3.4億円)を補助しています。



施設外観

【し尿処理施設の概要】

- 敷地面積：約2,134㎡
- 延面積：約718㎡
- 建物構造：RC造地下1階・地上2階建
- 事業費：約7.5億円
- 処理能力：38kl/日
- 処理方式：前処理・希釈下水道放流方式
(朝霞市公共下水道に放流)



祝辞を述べる吉田北関東防衛局長



テープカットにのぞむ出席者

防衛施設建設に係る優秀工事の顕彰

優秀工事13社に顕彰状を授与



7月4日(水)、北関東防衛局において、平成29年度に完成した工事の中から、厳しい施工条件にもかかわらず優れた施工を行うなど模範とするにふさわしい工事を選定し、紅林調達部長から顕彰状が授与されました。

木更津(28)格納庫改修機械工事
綜和熱学工業(株)

入間(28)局舎新設建築工事
(株)近藤組

木更津(27)K格納庫改修建築工事
(株)ケンソー

峯岡山(28)雨水排水施設整備工事
白幡興業(株)

霞ヶ浦(28)倉庫新設電気工事
イガラシ綜業(株)

入間(28)管制塔新設建築工事
佐田建設(株)

市ヶ谷(28)体育館改修工事
SMCリフォーム(株)

入間(27)通信局舎新設土木工事
(株)島村工業

吉井(28)保管庫新設設備工事
クシダ工業(株)

木更津(27)BC格納庫改修工事
日建(株)

赤坂(27)保安施設新設土木工事
ナガヤス工業(株)

佐渡(27)防災施設新設土木工事
遠藤建設(株)

横田(27)倉庫(1203)新設電気工事
川北電気工業(株)

薬物乱用防止への取り組みについて

平成30年6月21日(木)、北関東防衛局は、埼玉県警から講師を招き、薬物乱用防止教育のための講演会を職員向けに行いました。

6月は防衛省薬物乱用防止月間と定められており、当局では、毎年、薬物乱用根絶の意識を高め、厳正な規律保持を図るため、講習会を開催する等の啓発活動等を行っています。

講演には局長など幹部を始め、局職員100名以上が出席し、埼玉県警薬物銃器対策課の島野警部補から、生々しい薬物事犯の現状についてお話を伺い、講演終了後には、職員から薬物乱用に関する活発な質疑が行われました。職員は、薬物の危険性や恐ろしさを実感し、薬物乱用防止への意識が高まりました。



島野警部補



熱心に聞く参加者

小笠原諸島返還50周年記念式典

返還50周年を記念した式典や祝賀パレードを開催

今年6月26日、小笠原村が所在する小笠原諸島は、米国から我が国に返還されて50周年を迎え、年間を通じて様々な祝賀行事が行われています。

小笠原諸島は、文禄2年(1593年)に信濃国深志(松本)城主の曾孫、小笠原貞頼によって発見されたとされ、以来無人島であったが、文政13年(1830年)に欧米人と太平洋諸島民が定住し、江戸幕府による開拓を経て、明治9年(1876年)に国際的に日本領土になりました。

大正から昭和初期には、農業・漁業を中心に栄えましたが、昭和19年(1944年)に太平洋戦争の激化に伴い、約7,000名の島民が本土へ強制疎開させられました。

昭和20年(1945年)の敗戦により、小笠原諸島は米国の占領下に置かれ、翌年、欧米系の島民に限り帰島を許されましたが、多くの島民は昭和43年(1968年)6月に小笠原諸島が日本国に返還されたことで、ようやく、帰島がかなうことになりました。

昭和44年(1969年)の小笠原諸島振興開発特別措置法制定以降、村民の方々の努力により着実に村づくりを進められ社会基盤が整備され、10年後には村政が確立し、小笠原村として新たな一歩を歩み始めました。

近年では、豊かな自然や風土にあこがれて移り住む若い世代が多く、活気に満ちており、平成23年(2011年)6月の世界自然遺産登録に加え、国際的に海洋政策が注目される中、我が国の排他的経済水域の約3割という広大な海域を有する小笠原諸島の存在意義はますます高まっています。

この小笠原村の行政地域内の父島、硫黄島、南鳥島には、防衛施設が所在します。

父島には、海上自衛隊父島基地分遣隊及び夜明山送信所が所在し、主として船舶及び航空機の支援、救急患者輸送の支援を行っています。

太平洋戦争時の激戦の地である硫黄島には、海上自衛隊硫黄島航空基地、航空自衛隊硫黄島分屯基地、硫黄島通信所等が所在し、主として海上自衛隊哨戒機の運用、救難ヘリコプターの配備、補給中継、米海軍の空母艦載機着陸訓練(FCLP)、機雷掃海訓練、エアクッション艇訓練等が行われています。

南鳥島には、海上自衛隊南鳥島航空派遣隊、気象庁南鳥島気象観測所が所在し、海上自衛隊は航空機の離着陸支援、宿泊、気象観測支援を行っています。

このうち、硫黄島について、旧島民の方々は小笠原諸島の返還後、硫黄島への帰島を強く要望されておられましたが、昭和59年6月の小笠原諸島振興計画で「硫黄島には一般住民の方々の定住は困難であり、振興開発に適さない。」旨決定され、現在、旧島民の方々は定住されておらず、自衛隊が施設を設置し運用している状況にあります。

また、硫黄島には、日本人戦没者数約21,900名(厚労省発表)がおられ、平成30年3月末までに10,412柱のご遺骨が収集されておりますが、なお、一万柱を超えるご遺骨が未収集の状況にあります。

厚生労働省は、引き続き遺骨収集帰還事業を推進することとしておりますが、防衛省はこの業務に航空機輸送等の支援を行っています。

更に、父島は東京から約1,000km離れており飛行場がないため、父島、硫黄島の海上自衛隊は小笠原村において急患が発生した場合、航空機による緊急患者輸送支援を行っています。

この地域では、貴重で珍しい環境が残され、観光、環境、産業面のみならず我が国防衛にとっても重要な地域です。防衛省としても、父島、硫黄島における自衛隊部隊が、小笠原村や村民の皆様のご理解と協力を得ながら円滑に運用できるよう、小笠原村の発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。

一部出典：小笠原村ホームページ



父島におけるパレード



硫黄島

北関東防衛局からのお知らせとお願い

レーザー光線の航空機への照射は**犯罪^(注)**です。

神奈川県内、東京都内、沖縄県内等で飛行中の航空機に対してレーザー光線を照射するという事案が多発しています。

航空機へのレーザー光線の照射は、パイロットの目の負傷、失明、操縦への障害に繋がり、**墜落等による大惨事を地域の皆様にもたらしかねない大変危険で悪質な行為**です。

航空機に向けてレーザー光線を照射している人を見かけた方は110番通報をお願いいたします。



■レーザー光線による操縦士への影響(イメージ)

(注)平成28年12月、改正航空法施行規則が施行され、規制が強化(レーザー光線を航空機に向かって照射する行為自体に罰金(50万円以下の罰金))
刑法の威力業務妨害罪(3年以下の懲役又は50万円以下の罰金)、航空危険行為処罰法の航空危険罪(3年以上の有期懲役)等に該当する場合あり。

外務省、防衛省、警察庁、国土交通省

■本チラシの内容についてのお問い合わせにつきましては下記にご連絡願います。

防衛省本省 地方協力局地方協力企画課連絡調整室	(代表) 03-3268-3111	(内線 : 36688)
防衛省北関東防衛局 企画部地方調整課	(代表) 048-600-1800	(内線 : 2234)

米軍施設の上空やその周辺においてヘリやドローンを飛行させることは、**米軍の航空機との衝突事故等につながるおそれがある大変危険な行為**です。

実際に、米軍ヘリが衝突を避けるために回避を余儀なくされる等、米軍航空機の航行の安全に影響が生じるような事案が発生しています。こうした行為により、航空機の安全な航行を妨害したとき等には、**法令違反に当たる場合があります。安全確保のため、御理解をお願いいたします。**

米軍施設の上空やその周辺においてヘリやドローンを飛行させることは、**重大事故につながるおそれがある大変危険な行為**ですので、**行わないでください。**

こうした行為により、航空機の安全な航行を妨害したとき等には、**法令違反に当たる場合があります。**



防衛省、警察庁、国土交通省、外務省

■本チラシの内容に関するお問い合わせにつきましては、下記のいずれかの部署に御連絡願います。

防衛省本省 地方協力局地方協力企画課連絡調整室	(代表) 03-3268-3111	(内線 : 36245、36047)
防衛省北関東防衛局 総務部報道官	(代表) 048-600-1804	

★「北関東防衛局広報」のバックナンバーは、北関東防衛局のホームページでご覧になれます。

www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/kouhou/kouhou.html

北関東防衛局広報

検索

